

私たちは高知大学次期学長に岡本和夫先生を推薦します

【次期学長候補者 岡本和夫先生の略歴】

昭和45年4月 東京大学・理学部数学科卒業
昭和47年4月 東京大学・大学院理学系研究科修士課程修了
昭和48年3月 東京大学・大学院理学系研究科博士課程中退
昭和48年4月 東京大学理学部助手
昭和56年4月 一橋大学助教授
昭和58年4月 東京大学教養学部助教授
平成 2年4月 東京大学教養学部教授
平成 4年4月 東京大学大学院数理科学研究科教授
平成10年4月 東京大学大学院数理科学研究科長(平成14年3月まで)
平成14年4月 東京大学・大学総合教育研究センター長(平成22年3月まで)
平成22年4月 独立行政法人大学評価・学位授与機構理事
現在にいたる

(その他)

平成 7年4月 社団法人日本数学会理事長(平成9年4月まで)
平成 9年7月 日本学術会議会員(平成17年9月まで)
平成15年4月 財団法人日仏会館理事(平成22年10月まで)
平成15年4月 国大協入試専門委員会・専門委員(平成22年3月まで)
平成17年4月 高知工科大学非常勤講師(平成20年3月まで)
平成17年4月 財団法人東京大学出版会理事長(平成21年3月まで)



岡本和夫氏

独立行政法人大学評価・学位授与機構
理事(元東京大学教授・理学博士)

大学を一つに、心を一つに！ ～私たちの思いと願い～

岡本和夫先生は、高知大学の学長としてふさわしい見識と実績を有し、三度の来学を通じて高知大学に対して深い愛着と未来への可能性を感じておられます。そして、来学の際に交流のあった人たちは、その気さくで相手を思いやる人柄と懐の深さに「岡本先生を次期学長に」という思いを強くしてきました。

このたび私たちが、学外から岡本先生を学長としてお招きしようとした背景には、そういった岡本先生の実績や人柄の素晴らしさもさることながら、高知大学を一つにしたい、教職員の心を一つにしたいという願いがあります。ご存じのように、大学統合後初めて実施された4年前の学長選挙において、非常に不幸な出来事があり、本学の社会的信頼は大きく揺らぎ、学内には様々な疑心暗鬼、無用な混乱や対立が起き、それはまだ後遺症のように残っています。

こうした今の高知大学の状況を打破し、3つのキャンパスに分かれている教職員が一つになって、高知大学をより発展させていける環境づくりをするためには、学内の特定の組織に利害関係やしがらみのない学外の方が、少なくとも今の高知大学には、適任であると考えた次第です。もちろん、大学を一つにするためには私たち構成員の努力が一番求められており、推薦人に名前を連ねた私たちはその先頭に立って努力する覚悟です。

私たちのこの思いと願いにご賛同していただけるよう、学内構成員の方々から訴える次第です。

推薦代表者 上田健作 逸見 豊 吉尾 寛 内田 純一 奥田 一雄

岡本先生は数学がご専門です。特にパウルヴェ方程式の研究では世界的な権威で、岡本一パウルヴェ対や、岡本初期値空間とよばれている概念もある程です。また、優れた専門書も著されており、中には2011年度の日本数学会賞出版賞を受賞されたものもあります。

岡本先生は研究と同様に組織運営でも実績を残されています。東京大学在職中に大学院数理科学研究科長を務められ、その際には、第1期中期目標・中期計画の評価書の作成で大学の中心的役割を果たされたということです。また、日本数学会の理事長もされました。

研究面でも組織運営面でも実績があり、さらには大学の評価にも詳しい岡本先生は次期学長にふさわしい人物と確信し、自信を持って推薦する次第です。

理学部長 逸見 豊

岡本先生とは国大協入試専門委員会主催の「高大接続ワールショップ」(平成20年11月)でご一緒に以来親しくお付き合いいただいています。

高知にお越しの際に何度もお酒をご一緒に大学教育や大学運営についてお話を伺いましたが、待たなしの状況にある大学教育改革の「先頭を走れるのは地方大学である」というお考えにいつも勇気づけられています。このお考えは、私たちへのお世辞ではなく、先生が東大の教育改革を中心になって実践されてきた上での本音だと思います。

私は、幅広い地方大学の可能性を確信しておられる先生に、是非、私たちのリーダになって頂き高知大学の未来を切り拓くお手伝いをして頂きたいという思いから先生を推薦する次第です。

総合科学系長 上田 健作